

2024年9月9日

最新型の車載用円筒形リチウムイオン電池「4680」の量産準備を完了

～今後のグローバル展開を見据え、和歌山工場をマザー工場としてリニューアル開所～

パナソニック エナジー株式会社（本社：大阪府守口市、社長執行役員：只信一生、以下 当社）は、電気自動車（EV）向け円筒形リチウムイオン電池の最新型である 4680 セルについて、この度、量産準備が完了したことをお知らせします。4680 セルのマザー工場となる和歌山工場（和歌山県紀の川市）をリニューアル施工し、本日開所式を執り行いました。今後、最終評価を経て量産を開始します。



4680 セルは、従来の 2170 セルと比較して約 5 倍の大きな容量を持つことから、EV の航続距離の延長に貢献するほか、同じ電池容量を得るために EV に搭載するセル数を大幅に減らすことが可能であるため、バッテリーパックの組み立て工程の効率化や、ひいては EV コストの低減に繋がることなどが期待される新型電池です。一方、1セルあたりの容量が大きくなる 4680 の製造工程においては、より高度な技術や工法が求められます。当社は 30 年にわたる円筒形リチウムイオン電池の生産技術開発とノウハウの蓄積により、この度、業界に先駆けて高性能な 4680 セルの量産技術を確立しました。

和歌山工場は、従来リチウムイオン電池の部品製造を行ってきました。今回のリニューアル施工を機に、今後は 4680 セル生産のマザー工場として、新製品および新工法の実証拠点としての役割も担い、国内外の工場へ実証結果を展開することで、製品品質およびモノづくりの競争力への貢献を担うコア拠点を目指します。2024 年度中には約 400 人の人材が和歌山工場ですべての世代電池の開発・生産に従事する予定です。

また、和歌山工場は、環境と調和したモノづくりを目指して、太陽光発電や陸上風力発電など再生可能エネルギーも最大限活用した CO₂ 排出実質ゼロ工場として生産を開始します。同様に大阪の守口拠点と貝塚工場についても、このたび CO₂ 排出を実質ゼロ化し、2024 年 9 月時点で当社の国内全 9 拠点においてカーボンニュートラルを達成しました。2028 年度にはグローバル全 20 拠点での達成を目指します。



パナソニック エナジー社長執行役員の只信一生は、「この度、世界をリードする最新型 4680 セルの量産準備が整ったことを大変嬉しく思います。4680 セルの量産技術の実現は、長年にわたる円筒形リチウムイオン電池製造の技術と経験の蓄積であり、バッテリーならびに EV 業界に大きな革新をもたらすと確信しています。今後は、4680 セルを新たなラインアップに加え、より幅広いニーズに応えることで、EV の普及に大きな貢献を果たしていくとともに、ミッションである『幸せの追求と持続可能な環境が矛盾なく調和した社会の実現』を目指します」と述べています。

日本政府は、蓄電池を 2050 年カーボンニュートラル実現のカギであり重要な物資と位置付けており、国内の蓄電池サプライチェーンの拡充および産業競争力の向上に向けた取り組みを進めています。そのような中、当社はリチウムイオン電池の国内製造基盤の拡充ならびに競争力強化に向けて寄与していくとともに、4680 セルの生産と供給により国内外の EV の普及と環境負荷の低減に貢献することで、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。

和歌山工場の概要

工場名称	パナソニック エナジー株式会社 和歌山工場
所在地	和歌山県紀の川市打田 612-1
設立	1991 年 4 月
生産品目	車載用円筒形リチウムイオン電池（4680 セル）ならびにリチウムイオン電池用部品
敷地面積	99,177 m ²
建屋面積	60,907 m ²
従業員数	約 400 人（2024 年度：予定）

以 上